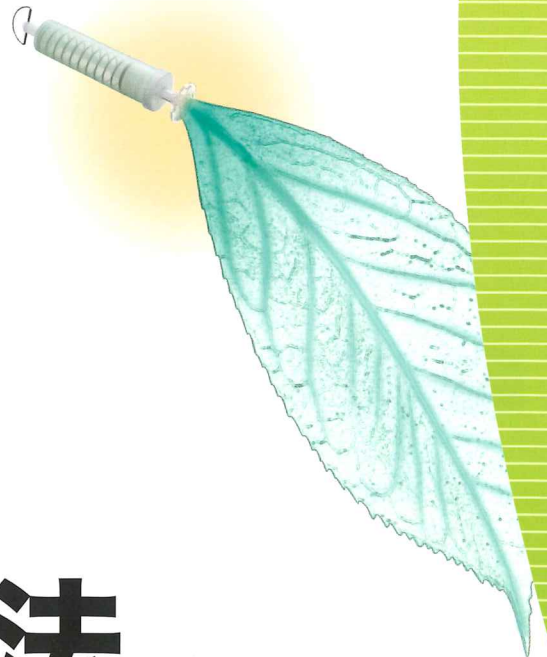


国土交通省 NETIS 登録番号CG-070007-V

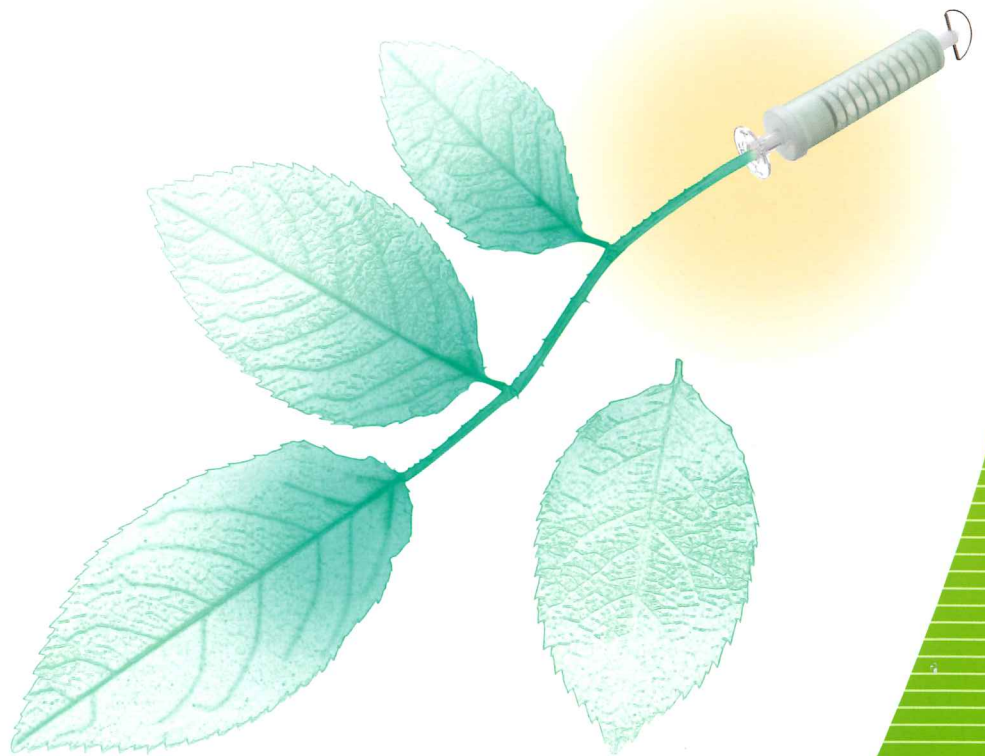
土木学会 技術評価証 第0009号

特許 第5074118号



IPH工法

(内圧充填接合補強)



SGエンジニアリング株式会社

IPH工法とは

コンクリート構造物は、地震という物理的な原因による被害や中性化・アルカリ骨材反応という化学的な原因により経年劣化し、破壊するまでその強度を減衰させていきます。その復旧の際には、大規模改修による莫大な費用を伴わない補修方法として「自動式低圧樹脂注入工法」が多用されています。しかしながら、この注入はコンクリート内部構造にまでは達しないものであり、その弱点である「強度復元力」を徹底改良したのが「IPH工法」です。本工法では穿孔穴の内部から注入された樹脂がコンクリート躯体内で放射状に拡散することにより、末端の微細クラックまで充填することができます。その画期的な特長から、鉄筋とコンクリートの付着強度を高めるだけでなく、さらに高い防錆効果が得られる唯一の高密度注入工法として土木学会の技術評価を得ています。

特 長

1 高密度充填

一般工法では注入用の樹脂の粘度が JIS 規格で 1000mPa・s 以下と設定され、加圧力は建築改修工事共通仕様書で 0.4N 以下と定められています。本工法では高流動性のエポキシ樹脂を用い、注入加圧力を $0.06 \pm 0.01 \sim 0.02 \text{ N/mm}^2$ という超低圧に抑えることで毛細管現象も生かされ、まるで植物の葉脈すべてに水分や養分が行きわたるようなイメージの高密度かつ高精度な充填が可能になります。さらに、注入器（IPHカプセル）には、注入剤の浸透を阻害する内部エアーを排出する機能があります。

2 耐久性の向上

同上の要素から構造物内の 0.1 mm 以下のクラックへの注入が容易であり、計測実績からは 0.01 mm 程度の微細クラックへの注入も可能です。それに伴い、新設時よりもコンクリート躯体強度が増すことから耐久性の向上が大いに期待できます。

3 鉄筋防錆・中性化抑制

下地調整用セメントペースト（IPH#300）の成分が内部鉄筋周囲まで確実に浸透することにより、鉄筋の防錆効果が高まるとともに、再アルカリ化からコンクリートの中性化を抑制します。

4 注入状況の可視化と遮光機能

透明な遮光カプセルケースを使用しておりますので、注入剤残量等が目視確認できるとともに、紫外線や日射熱の影響を緩和します。

5 供用を妨げない施工が可能

道路・鉄道・空港等、施設の利用状態での施工が可能です。

用 途

土木・建築・構造物等あらゆるコンクリート分野の耐震補強を含めた補修・改修・止水。

土 木

トンネル・ダム・堤防・擁壁・橋桁・橋脚・床版

建 築

建築基礎・外壁・構造壁・地下室・レンガ、タイル下地

構造物

パイプライン架台・タンク基礎・ネットフェンス布基礎

施工手順

下地処理

劣化部・ひび割れ部をVDRダイヤモンド吸塵システムで研磨、欠損部はIPH#600で成型補修し注入ポイントをマーキングする。

穿孔

注入カプセル取付位置を水循環型のIPHミストダイヤで穿孔する。

台座取付

注入ポイントにピックアップシールを用い、JP台座を取り付ける。
(低温時等、高速硬化の必要な場合には、クイックシールを使用する。)

ひび割れシール

注入ポイント以外のひび割れ箇所は、洩れ防止のためピックアップシールで密閉する。(高速硬化の必要な場合には、クイックシールを使用する。)

注 入

IPHカプセルを取り付け、E-396Hを注入する。
(低温時等には、硬化の早いA-396MSCを使用する。)

撤去・清掃

注入カプセル及びピックアップシールを取り除く。

表面処理

VDRダイヤモンド吸塵システムで平坦に研磨し、IPH#300を塗布する。
硬化後、無機系通気型撥水塗料セラブレンドP-5000で塗布仕上げをする。

作業工程



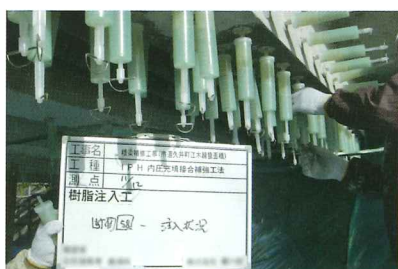
1 下地調整 (IPH#300塗布)



2 断面修復 (IPH#600塗布)



3 穿孔 (IPHミストダイヤ)



4 注入硬化養生 (IPHカプセル)



5 完成 (橋梁下部)



6 完成 (橋梁全体)

柱状供試体の性能回復実験 (広島工業大学工学部建築工学科・耐震構造研究室)

目 的

実構造物から取り出した柱部材を供試体として「せん断破壊試験」を行い、IPH工法でひび割れ箇所を補修した後に再度破壊試験を行うことで、エポキシ樹脂注入によるコンクリート性能の回復効果を検証する。



1 せん断破壊試験後状況(補修前)
せん断破壊した柱状供試体 (AC-1)



2 欠損部の修復状況
使用材料 IPH#600



3 エポキシ樹脂注入状況
使用材料: E-396H
IPHカプセル: 注入圧力0.06N/mm²



4 補修完了状況
注入完了後、表面研磨 (AC-1RE)



5 せん断破壊試験状況
建研式載荷装置



6 せん断破壊試験後状況(補修後)
※せん断破壊は注入位置ではなく、オリジナルコンクリート部で発生

結 論

以上、ひび割れ部への補修材として低粘度のエポキシ樹脂を注入した結果、ひび割れ耐力は約160%、最大耐力は約140%という大きな回復効果が認められた。最大耐力が増加した原因は、斜めのひび割れ部に注入されたエポキシ樹脂が引張材としての機能からひび割れの進行や拡大を抑制し、同時にせん断力への抵抗性を高めたことである。

試験体	せん断ひび割れ耐力		最大耐力	
	実験値(kN)	回復率	実験値(kN)	回復率
AC-1	182.5	1.57	309.8	1.38
AC-1RE	287.0		426.8	

注入剤 (E-396H) の充填状況

ブラックライト照射評価
高流動のエポキシ系注入剤が、エア混入も無く高い密度で充填されています。

